



令和6年11月19日

岩倉市議会

議長 関戸 郁文 様

会派名 公明党

代表者名 鬼頭 博和

研修報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

1 実施日 令和6年10月9日（水）～10月10日（木）

2 視察先 全国市議会議長会研究フォーラムin盛岡

3 出席人数及び氏名

2名	鬼頭 博和	谷平 敬子

4 復命事項

別紙のとおり

第 19 回「全国市議会議長会研究フォーラム」 公明党会派研修報告書

- 日 程 令和6年10月9日(水)～10日(木)
10月 9日 13:00～16:30
10月10日 9:00～11:00
- 場 所 トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)
岩手県盛岡市内丸 13 番地 1
- 参加者 鬼頭 博和
谷平 敬子

10月9日(水) {13:00～16:30}

13:00 開会式

全国市議会議長(神戸市議会議長) 坊 恭寿 挨拶

13:20～14:00

ビデオメッセージ 菅 義偉 代99代内閣総理大臣

「メッセージ要旨」

最初に全国の市議会議員に対して日頃の活動に対する謝辞がありました。菅前総理も横浜市議会議員を2期務めた後、国政に挑戦し現在に至るまで、地方議員時代の経験や人脈が政治家としての原点であることが述べられました。

その想いのもと国会議員として、地方の経済を元気にする、地方の所得を増やす政策をライフワークとして取り組んでこられた。その一つが、ふるさと納税である。地方から都会に出てきている人は、自分を育ててくれたふるさとに貢献をしたいという想いを抱えているに違いないと思い、温め続けていたふるさと納税を創設した。2008年度にスタートした当時は、年間81億円の利用であったが、制度を見直し、昨年度初めて1兆円を超えた。ふるさと納税を利用して自治体が創意工夫し、税収が増えた、新しい産業が生まれたなど、喜びの声が広がっている。

次にインバウンド。安倍政権で観光立国を掲げて取り組み、政権発足前836万人だったインバウンドは、コロナ前3200万人にまで増加し、4兆8000億円となった。昨年は2500万人まで回復し、今年は過去最高を超える3500万人に上る見込み。その消費額も円安を伴い、今年は7兆2000億円とも言われている。インバウンドは日本経済を支える大きな柱となっている。安倍政権で輸出本部を設置するなど強力に推進した結果、4500億円だった輸出額は、昨年、1兆4547億円にまで増加。インバウンドとの相乗効果で日本の農産品の魅力が世界各国に広がっている。

最後に、地方自治の最前線で活動している地方議員の皆様に激励の言葉を送られ、メッセージを締めくくられました。

全国市議会議長会 宮地事務総長

地方議会に対する厚生年金の導入について説明がありました。

14:20～16:30

(パネルディスカッション)

「地方議会の課題と主権者教育」

○コーディネーター

井柳 美紀 静岡大学人文社会科学部法学科教授

○パネリスト

土井 希美枝 法政大学法学部教授

越智 大貴 一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事

渡辺 嘉久 読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局

遠藤 政幸 盛岡市議会議長

コーディネーターの井柳氏は、地方議会の課題として投票率の低下、無投票当選の増加、議員の性別や年齢構成の偏りなどがあり、議会に対する関心を高め理解を深める主権者教育を一層進めることが必要であり、いわゆる出前講座や模擬議会など議会が自ら行う主権者教育の取組の重要性を指摘した。

土井氏は、主権者教育の主体はあくまで学校であり、教育委員会であると述べ、議会は若者議会などを通じて若者の意見に耳を傾け、共に学びあい施策に反映するなど真摯にこたえることが重要であり、そのことが政治や議会に対する信頼に直結すると述べた。

越智氏は、日本財団が実施した「18歳意識調査(2024)」の結果から、若者は、政治に関心がないから選挙にいかないというよりも、どうせ変わらないから選挙にいかないことがわかるとのべ、一方で、社会のために役立ちたいとも思っている。学校現場における主権者教育の現状は、選挙についての知識や啓発を行う教育がメインになってしまっている。13年間の主権者教育の取組として、「WE CITY:こどものまち」、「こどものワークショップ:こどもの意見表明」、「こども議会:議員との交流会」を紹介した。こうした取組を通して、子どもたちは「自分たちの行動で、国や社会を変えられる」との感覚をもつことができるようになる」と述べられた。議会の役割としては、交流の機会を増やし、自分の意見が反映されると感じられる機会を増やすことである。また、政治家との交流は、子どもたちの政治意識の醸成に大きく影響すると述べた。

渡辺氏は、越智さんが行っている主権者教育を取材した際、松山市内の私立女子高校で初めて授業を受け持つ機会があった。その際、生徒たちに「選挙に行く人はいるか」と問いかけたが、35人中手を挙げたのはたった1人だったので、残りの34人に「なぜ、行かないの」か聞いたところ、「政治のことを知らないの、私が誤った判断で投票して、その結果、世の中が変な方向に行ったら嫌だから」との意見があった。若い人たちは政治に関心がないからだろうなと思い込んでいたが、実は政治に関心がないわけではなく、どうやって政治を知り、政治と繋がれば良いか、分からないだけではないのかと感じた。渡辺氏の考えは、情報が未来を決定するとして、情報を持っているか、またその情報が正しいかが重要であると述べた。「政治とつながる」＝「未来とつながる」、「政治を考える」＝「未来を考える」ことである。「こうありたい」という未来のために、何が必要かを考えることが大切であると語られた。

遠藤氏は、盛岡市議会では高校生議会として「次代を担う高校生が選挙及び政治並びに身近

な地方行政への関心を高めること」を目的として取り組んでいることを紹介。住み続けたいくなるまちをテーマに市政の課題を事前学習し、それぞれが意見を発表する中で議員も高校生と意見交換を通して一緒に解決策を検討して提言にまとめている。終了後には、高校生から「市政に関心を持った」「議会の役割が理解できた」との感想があり、教師からは高校生議会を通じて生徒が議会に関心を持ち、格段に理解を深めたとの感想が寄せられているとのことであった。

「所感」

統一地方選の投票率推移は、低下傾向である。これまでも言われてきたことであるが、若者の政治離れが進んでいる。ディスカッションにあったように、自分で国や社会を変えられると思う割合は、他の先進諸国にくらべてかなり低くなっている。今回のフォーラムで紹介された主権者教育の取組のように、子どもや若者が、意見を表明する機会を設けそれを施策に反映していく取組は重要である。自分たちの行動が、国や社会を変えられると感ずることが大切である。本市では小学生と議員との対話を行ったが、中学生や高校生などの若者との交流の機会を作っていきたいと思う。

10月10日 {9:00~11:00}

(課題討議)

「主権者教育の取組報告」

○コーディネーター

河村 和徳 東北大学大学院情報科学研究科准教授

○事例報告者

白鳥 敏明【伊那市議会前議長】

「高校生の議会傍聴と意見交換の取組」

伊那市では平成30年の市議会議員選挙が無投票となったことで議員のなり手不足に危機感を抱き、議会改革の一環として高校生に議会を傍聴してもらい、意見交換をする取組を開始した。意見交換の流れは、生徒代表から学校の探究の時間での取組を発表していただき、その後生徒と議員それぞれ3~4人ずつのグループに分かれて討議を行い、各グループの議員代表が討議の結果を発表し、最後に感想を述べていただいた。高校生からは「初めての経験だったので緊張したが、自分の意見を言うことができ、伊那市のこともよく知ることができた」「親身に話を聞いてもらえた上にアドバイスもいただけたので非常に良かった」と好意的な感想や、中には「将来政治家になりたい」という非常に頼もしい感想もあった。議員からも「高校生が真剣に取り組む姿に感動した」「高校生の声を直接聞ける良い機会なので今後も開催していきたい」など積極的な意見が出た。

伊那市では毎年、中学2年生を対象に「中学生キャリアフェス」という地域の企業や団体を知り、中学生が将来の進路について考え、また地元就職について検討するきっかけを狙ったイベントを、教育委員会が中心となって開催している。市議会も昨年から出展しており、生徒たちの興味のあるものを題材に選挙を行う「中2興味あるある選挙」を開催しているほか、中学生と議員との懇談、

市議会の役割等に関する冊子の配布なども行っている。

諸岡 覚【四日市市議会議員(第83代議長)】

「出前型意見交換会 『ワイ！ワイ！GIKAI』」

若者を対象に学校などへ出張形式で意見交換会を行う「ワイ！ワイ！GIKAI」を令和4年度から開催している。これは従前からのシティミーティングや議会報告会の参加者の減少・固定化を受け、危機感を抱き、新たな取組として開始したもの。当日の流れは、議員と生徒が3グループに分かれてディスカッションを行い、その議論の成果と感想を生徒から発表。後日、テーマごとに生徒からの意見を整理し、今後の議会での議論にどう活用していくのかを確認。さらに、開催校の生徒が授業の一環で市議会を訪問、傍聴され、当初想定していなかった嬉しい成果となった。

また、特別支援学校からも「ワイ！ワイ！GIKAI」を実施してほしいという依頼があり、その際は言葉でのコミュニケーションが難しい生徒がいることに配慮し、投票方法についての動画を見たり、選挙ポスター作り体験などを行った。このように学校側の意向、または生徒の意見を尊重して様々な形式で開催しており、決まった形に捉われない取組を進めている。今年は初めての試みとして商工会議所青年部の社会人を対象に行う予定。今後も様々な層の若者との交流を図っていくとのこと。また、高校生議会も実施しており、事前に議長の立候補を募って生徒たちの投票で議長を決めたり、委員会ごとにテーマ別の議論をするなど本格的な形式で行っている。最後は意見書が採決され、四日市市議会議長に提出される。

小中学生を対象とした取組として、「よっかいち市議会だより#(ハッシュタグ)こども号」を毎年7月初めに発行、市内の全小中学生に配布している。これは夏休みの自由研究などに活用してもらうため、イラストや写真を多用してわかりやすく議会を説明している。同時に、夏休み中に小学生が議会を訪れて議場を見学したり、予定が合えば議長や副議長とも会って話たりする試みも行っている。

服部 香代【山鹿市議会議長】

「小学生へのシチズンシップ教室」

議会の仕事について市民の理解が得られていないという課題があり、議員のなり手不足についても議会の役割が理解されていないことが要因である推測。また、投票率の低下にも危機感を抱き、若い世代の投票率を上げなければ更に低下すると予測し、子どもの頃から政治に主体的に関わることの重要性を理解してもらうことが大事だと感じた。そこで、市議会について知ってもらうことを目的に、小学校へ出向いてシチズンシップ教室を開催。議員の仕事や議会の役割、選挙の意義などについて説明した。更に、地域の読み聞かせボランティアの方々にも協力してもらい、子どもたちの投票結果によって展開が変わる絵本「ポリポリ村のみんしゅしゅぎ」を使って投票の大切さや政治と暮らしは密着していることを学んでもらった。授業を受けた子どもたちからは、「議員の仕事が良く分かった」「1票の大切さを知れた」「地域のために頑張っている人がいることを知れた」などの好意的な感想が寄せられ、議会への理解が進んだ。また、協力いただいた読み聞かせボランティアの方々には各地で本市議会の取組を広めていただき、議会のイメージアップに

も繋がった。

民主主義は一朝一夕には育まれないもの。子どもの頃からの主権者教育を通じてそれを身につけることでなり手不足解消、政治への関心の高まりに繋がると考えている。

(取組みの成果と課題)

白鳥: 高校生から「議員と意見交換する大切さを知った」との感想や、今度は意見交換の場を議員からだけではなく自分たちから呼びかけたいという積極的な意見もいただいた。また、意見交換会に参加した高校生から市の子育て環境の改善に関する請願を出していただき、全会一致で採択、市長部局に提案した。他にも高校校舎の避難所としての活用や通学路の街灯増設、高校の最寄駅での再開発に伴う若者の居場所づくりなど多くの提案をいただいた。こうした生徒たちからの声は議会を通じて執行部に改善の提案をしており、生の声で様々な改善が図られることが一つの成果ではないかと考えている。議会に対する意見としては、議会だよりやSNS活用など議会の情報発信の強化、議事録の読みやすさ向上などについて提案をいただいた。議会としても若者の意見を取り入れるように様々な工夫を行っており、実現に向けて取り組んでいる。

諸岡: 「ワイ！ワイ！GIKAI」では、参加した議員がローテーションで生徒と対話し、様々な議員と意見交換できるようにしており、議員のイメージが一つに固まることなく、様々な考えをもった議員がいるということを理解してもらえた。また、去年は有権者ではない市内の大学の外国人留学生を対象に開催したが、市の掲示物について「丁寧な日本語は逆に分かりにくい」など、日本人だけの視点ではわからないことを知ることができ、非常に勉強になった。議員も若者も一つの塊ではなくそれぞれ一人ひとり違う。ひとかたまりで捉えてしまうと声の大きい、またはリーダーの意見しか入ってこない。一人一人の声を聴いて吸い上げる姿勢を議会が見せることによって、有権者が政治に目を向けるのではないかと。主権者教育も、ただ決まったことを教えるのではなく、相手の望むことを可能な限り実現させていくスタンスを強めていくことが必要だと感じた。

服部: 小学生へのシチズンシップ教育では投票結果で展開が変わる絵本を使用したけど、一部のクラスでは理路整然とした発言をする生徒に大半が引っ張られ、投票結果が大きく偏ってしまう事態が起きた。「あの子がこう言うから、みんながこう言うから本心と違う方に投票してしまった」という児童もいた。そのように周囲の意見と自分の意見の狭間で揺れるような体験もきっと心に残ると思うし、民主主義を学ぶ過程では必要ではないかと思っている。また、今後の主権者教育では、ルールを作る体験も取り入れていきたい。主権者教育において、議員が自分の言葉でやりがいを語り、仕事の体験を語ることは議員にしかできない。シチズンシップ教育で訪れた学校では、議員に会ったことがない児童がほとんどだった。実際に議員に会うだけでも「政治に触れる」という体験の一つになっているのではないかと。また、多くの児童たちがシチズンシップ教育の授業について、家に帰ってから家族に話していることがわかった。彼らが家族と投票について話してくれれば、それが政治参加への第一歩になるはず。主権者教育は広報・広聴の究極とも言われる。子どもたちが民主主義の仕組みを学び、体験することを重要視して取り組んでいきたい。

「所感」

岩倉市においても、投票率の低下が著しい状況となっており、主権者教育について議会の中でも議論している。今年度は小学生との意見交換を通じた交流をすることができた。子どもたちがどのような感想を持ったのか聞き取りも行い、今後につなげていきたい。

今回の研修でお聞きしたパネルディスカッションと事例報告は大変参考になりました。投票率の向上に向けても、児童、生徒を含む若者との交流は大変重要であると思う。子どもに議員から何か教えていくといったスタンスではなく、研究フォーラム中で語られていた「議員と若者とのコミュニケーションを活性化し、交流の場を増やして『こども・若者に何かしていく』との視点ではなく、『こども・若者と何かしていく』という視点が重要ではないか」といった言葉が印象に残った。議会と若者が自由に語り合える場を作っていけるよう取り組んでいきたい。

11月16日(金) {11:40~17:00}

「盛岡市『歩いて楽しむまち盛岡』歴史・文化・観光資源 視察」

会場 → 昼食 → 岩手銀行赤レンガ館 → 盛岡城址公園 → もりおか歴史文化館
→ 岩鑄鉄器館 → 花巻空港

「所感」

岩手銀行赤レンガ館は、1911年に建設され2012年まで銀行業務が行われていたもので、保存修復工事が行われたとはいえ、とても保存状態が良く建設当時の内装などとても貴重なものを見学することができました。盛岡城址公園では、盛岡南部氏の居城跡や宮沢賢治、石川啄木の碑を見学しました。もりおか歴史文化館では、南部氏の歴史や盛岡の伝統文化を説明員から詳しくお聞きし歴史・文化について勉強することができました。岩鑄鉄器館では、南部藩に保護され、400年の伝統を受け継いできた南部鉄器の鑄鉄工程を、職人の皆さんが実際に行っている手作業を間近に見学することができ、大変貴重な経験をすることができました。

岩倉市の山車文化についても後世まで残せるような取り組みが必要であると感じました。